

地域コミュニティ協議会名称

# 関屋小学校区コミュニティ協議会

活動名称

犯罪から地域を守ろうパトロール活動

世帯数

約2,700世帯

## 活動内容

関屋小学校周辺には、比較的多くの女子学生を擁する「新潟青陵大学、新潟青陵大学短期大学部、新潟青陵高等学校」があり、数年前までは非常に家庭的な雰囲気が漂う、ゆったりとした生活し易い地域でした。そのため、犯罪などの発生が少なかったのですが、ここ最近は「風俗犯（公然わいせつ）」の横行が多くなりました。

私たち「関屋小地区防犯協会」は、子どもたち（関屋小学校児童192名）や女子学生などを被害から守ろうと、地域を4ブロック（関屋田町、下川原松波、学校町3、関屋新町・田町）に分け、毎月第1、第3木曜日の午後3時から、約1時間かけて、子どもたちの下校時間帯に合わせて、防犯タスキ、防犯帽子を着用し、自治防犯会長、自治防犯委員、民生委員など、1ブロック7～8名で巡回・巡視し、犯罪防止に努めています。

青色回転灯装備車（青パト）の参加も時々いただいています。



## 実績・効果

パトロール実施に当たり、地域の皆さんは当初はあまり関心を示しませんでした。巡回・巡視の回数が重なるこの頃は、私たち役員の苦勞を察し、地域の方々の挨拶の輪が広がってきたような気がします。このことがコミュニティ協議会の全体の事業内容に浸透してくれることを期待しています。

地域コミュニティ協議会名称

## 有明台小学校区コミュニティ協議会

活動名称

防災運動会を取り入れての防災訓練

世帯数

約2,800世帯

## 活動内容

最近、地震を含む災害が頻発していることから、地域がひとつにまとまり、災害に対応する態勢を整えようと、平成16年6月15日に「有明台校区自主防災会」を設立しました。

防災会は、向こう三軒両隣（隣保協同）精神に基づく自主的な防災活動を行うことにより、水害、火災、地震、その他の災害による被害の防止及び軽減（減災）を図ることを目的としています。

災害時は迅速な活動が求められるため、各関連団体の持ち味を活かして、給水給食部は婦人部、避難誘導部は交通安全推進協など7つの専門部を組織し、役割分担を明確にしました。

当初は、避難誘導訓練、初期消火訓練、搬送訓練、人工心肺訓練、起震車体験、消防署への伝達訓練、止血訓練など、体験訓練が主でしたが、昨年からはこれらを取り入れての「避難所運営訓練」まで開催できるようになりました。

また、子どもたちに災害に対する関心を深めてもらうことも大切と、初年度からバケツリレーや情報伝達リレーなどの「防災運動会」を組み込み、多くの子どもたちの参加があったことは特筆すべきことでした。参加者は400～450人です。



## 実績・効果

現在、防災訓練が契機となって、地域の福祉活動（一斉清掃・お楽しみ会等）や防犯活動、スポーツ活動等が活発となるなど地域のコミュニケーションが容易となり一体感が生まれました。

それに、この活動が評価され、総務省・警察庁の「地域安心安全ステーション整備モデル事業」の指定も受け、その助成金で登録無線機や発電機、担架といった資機材を配備でき、より効果的な訓練やパトロール、登下校時の交通安全誘導など幅広い活動ができるようになりました。

まだまだ、様々な課題はありますが、今後も訓練ばかりでなく地域に根差した活動、住民共通の認識の上に向けた目標に向けて、精進に努めたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

## 鳥屋野校区コミュニティ協議会

活動名称

鳥屋野校区自主防災会

世帯数

約5,400世帯

## 活動内容

当防災会は、地域内が一つにまとまり、災害に対する体制を整え、組織内各部相互の連携及び効果的な自主防災活動の実施と各種防災資機材の知識及び取扱要領を習得し、災害発生時に迅速な対応で被害の防止と軽減を図ることを目的として、平成17年2月に設立されました。

平成20年11月2日に第4回目の自主防災訓練が実施され、住民の相互助け合い精神の絆を一層強めることができました。

当防災会では、災害時の迅速な活動が図られるように、「本部」と「防災情報部」、「防災訓練啓発部」、「給食給水部」、「避難所運営部」の各部署体制で、住民の役割を明確にした組織化を図っています。

今回の防災訓練の指導は、地域と隣接の消防署、地元消防分団の方々からいただきました。

訓練の内容は、避難誘導訓練、情報収集訓練、初期消火訓練（消火器の取り扱いとバケツリレー）や、救出救護訓練では心肺蘇生法の講習と三角巾やダンボールを用いた応急手当、毛布と物干し竿を使った応急担架の作成、煙体験テントによる火災時の濃煙体験など、その対処法を習得しました。最後には炊き出し訓練のアルファ米のご飯を参加者全員で味わいました。



## 実績・効果

今回の成果としては、初めて災害時要援護者宅を訪問し、安否確認情報を収集する訓練を実施できたことです。

今後も防災訓練を繰り返し行い、さらなる内容の充実と質の向上を図ると共に参加人数を増すためのPRに努める必要があります。

地域コミュニティ協議会名称

# 上山校区コミュニティ協議会

活動名称

収容避難所運営組織づくり事業

世帯数

約4,600世帯

## 活動内容

各自治会では、どのようにして家族コミュニティづくりを呼びかけるか、どのようにして隣近所が助け合う隣組・班に進化させるかが当面の課題です。

この手段のひとつとして、防災組織結成活動に取り組む自治会が生まれていますが、まだ20自治会中7自治会の結成にとどまっています。

一方、このような状況下で、万一大災害が発生したら、数千世帯もの住民が無秩序に小中学校に避難することとなり、大混乱は避けられないだろうということが、コミュニティ協議会役員の共通認識で、防災研修会を実施することになりました。

## 実績・効果

### 防災研修会の開催実績

#### 研修内容：

- ・収容避難所運営に際し発生する問題及びその原因
- ・諸問題発生を減らすための方策提起

参加者：85名

(自治会の会長や防災・育成関係者、小学校PTA役員、民生・児童委員)

#### 研修成果：

- ・コミュニティ協議会に安心安全部会を新設するきっかけとなりました。
- ・収容避難所の運営や各自治会の防災活動について、コミュニティ協議会で検討を進めていくきっかけとなりました。

### 事業の効果

- ・まず、ひとつの自治会で防災組織が結成され、町内一時避難所の設定と訓練が行われました。
- ・安心安全部会からコミュニティ協議会へ提案を行い、それを受け、コミュニティ協議会の構成団体である自治連合会やPTA、民生委員児童委員協議会で検討し、その後コミュニティ協議会で検討を進めていくこととなりました。

#### 【提案内容】

1. 各自治会防災活動において最低限対応すべき事項として、「各町内一時避難所選定、収容避難所誘導統率者の選出、要援護者支援体制づくり、防災訓練の実施」など
2. コミュニティ協議会として最低限対応すべき事項として、「各収容避難所運営協力責任者の選出、収容避難所収容者名簿用紙の作成並びに自治会への配布」

地域コミュニティ協議会名称

# 女池校区コミュニティ協議会

活動名称

女池校区自主防災会活動

世帯数

約5,800世帯

## 活動内容

女池校区自主防災会は、地域住民の安心・安全を支援するために、平成17年10月に設立しました。この地域は、鳥屋野潟に面した地盤の低い所で、常に水害、地震などの危険がつきまとい、住民の不安が消えません。

防災会はこのようなことから、校区全域の自主防災に対する、住民の災害に対応する姿勢を整え、被害の防止、軽減することを目的にしています。

毎年、市消防局の指導を受けて、女池小学校体育館を会場に各自治会（26自治会）の、のぼり旗を先頭に、避難所への誘導、初期消火訓練、心肺蘇生訓練、応急救護訓練、三角巾の使い方の訓練、婦人部による非常食炊き出し訓練（アルファ米）を行い、終了後参加者全員でアルファ米を試食しています。



## 実績・効果

訓練を重ねるにつれ、住民の災害に対する意識が向上し、皆さんで声を出して集合が出来るようになり、分野を超えた活動になりつつあります。これからもますます防災訓練を重ねて、よりよい安心安全なまちづくりに取り組んでいきたいと思ひます。

地域コミュニティ協議会名称

# 上所校区コミュニティ協議会

活動名称

地域住民の防災・防犯意識を高める安心安全なまちづくり活動

世帯数

約6,200世帯

## 活動内容

当地域は住宅が密集している地域が多く、お年寄りだけの世帯も少なくありません。そのため、これまで救急法の講習や防犯講習会を実施して防災・防犯の啓発に努めてきましたが、参加者が少なく意識を高めるまでには至っていませんでした。また、防災訓練を実施している自治会もありますが、諸事情で実施できない自治会も数多くあります。

そこで、平成20年度は、市中央消防署駅南出張所と地域の消防団の協力を得て、上所小学校のグラウンドと体育館を借用し『防災フェスタ』を計画しました。

当日は、消防音楽隊の演奏に始まり、応急手当法、心肺蘇生法、消火器の使い方などの実習や、消防車・小型消防車に手を触れながらお話を聞くことができました。危ぶまれた参加者数も各自治会長や上所小学校PTAの協力を得て、200名以上の人々が集まってくれました。「近くに消防団の人や小型消防車があるなんて知らなかった」と話している子どもたちの声が印象的でした。

防犯の面では平成20年度も新潟東警察署の協力で、振り込め詐欺などの被害に遭わないための講習会を開催し、80名余が受講しました。また、防犯部による防犯パトロールを実施すると共に、自治会によるパトロール隊の編成を呼びかけ、現在では複数の自治会が子どもたちの登下校に合わせて巡回を実施しています。

## 実績・効果

『防災フェスタ』では、特に応急手当法や心肺蘇生法の実習に進んで取り組む姿が見られました。「いざとなると手が出ないかもしれないが、知っている知らないとは大違いだ」などの声が聞かれ、防災への意識の高まりは期待できたと思います。また、消防車を校地内に入れるときの苦勞から、避難所である学校の出入り口の改善が必要であることもわかりました。

防犯講習会では、効果を見ることはできませんが、今も増え続けていると言われる振り込め詐欺に対する備えが参加者に浸透したのではないかと思います。

地域コミュニティ協議会名称

# 笹口校区コミュニティ協議会

活動名称

自主防災会

世帯数

約4,100世帯

## 活動内容

平成16年1月に、校区内17自治会・町内会で構成する笹口校区自主防災会を結成しました。地区を1区から4区と4つのブロックに分割し、本部を避難所に設置しました。また各自治会・町内会毎に一時避難所を設け、災害訓練時はそこから全員が本避難所に向かいました。

組織は、本避難所に行政との連絡のための会長・副会長等を始め、避難所運営のための情報部・避難所運営部・給食給水部を設置し、各自治会・町内会に情報部・消火部・救出救護部・避難誘導部を設置しました。

平成20年11月9日に第5回目の「避難訓練」と「各種訓練」を行ないました。

参加人員は308名でした。全員を三つの班に分けて、訓練を行ないました。

訓練内容は、

- ① 「情報伝達」(各自治会・町内会より本部情報部に報告→会長→区)
- ② 「初期消火訓練」水消火器及びバケツリレーによる初期消火。
- ③ AEDを使った「心肺蘇生法」の訓練。
- ④ 「地震体験車」による、揺れの程度の体験。

訓練を終えて、自治会・町内会ごとに、給食・給水班の作った、アルファ米の昼食と、とん汁をいただきながら、ひとときの談笑を交わして解散しました。みんな一所懸命に訓練しました。

また、毎年秋に「防火・防犯座談会」を開催しています。出席者は50～60名程度です。



## 実績・効果

当校区は、全世帯の約75%がアパート・マンション住まいであり、加えて、年間100世帯余りが移動します。そうした環境で、年代層を乗り越え住民全体の風通しを良くする妙案はありません。子どもを持つ親同士は、学校に創設した「ふれあいスクール」を通じて、融和を図っています。より多くの住民が顔見知りになるために、防災訓練等の機会に大勢参加してもらえるよう、学校との二人三脚で実施しています。少しずつ「地域の輪の風」が吹くことを祈りながら……。

地域コミュニティ協議会名称

## 山潟地区コミュニティ協議会

活動名称

総合防災訓練

世帯数

約7,200世帯

## 活動内容

山潟地区コミュニティ協議会創立早々、地域の防災活動の実情を把握するため、加盟自治会に自主防災会設立の有無と、その活動の内容のアンケート調査を行いました。その結果、自主防災組織は14組織に達し、新潟市の平均を上回っていました。

しかしながら、設立以来防災訓練を継続して積み重ねている組織は、8防災会にとどまっています。また、相互に訓練の交流を実行しているのは2防災会しかありませんでした。

以上の実情から、万一災害が発生した場合の危機管理、避難のあり方を考えた場合、コミュニティ組織全体として災害対策意識の共有、向上が不可欠であると思われことから、コミュニティ協議会加盟組織の協力を得て総合防災訓練を行うこととしました。「自分たちのまちは自分たちで守る」という防災意識の高揚を図るとともに、災害時の初動的対応力を習得することを重点にして、安心安全部会が中心となり、立案、運営に当たりました。



## 実績・効果

## 【実績】

参加人員 450名

- 主な体験内容
- ◆消火器取扱訓練
  - ◆濃煙テント体験
  - ◆起震車による地震震度体験
  - ◆AED操作、心肺蘇生法実習
  - ◆給水車による給水
  - ◆アルファ米炊飯作業と配食

## 【効果】

- ① 避難行動中の統制、安全確保と人員の把握の実施
- ② 自治会員に共通の防災意識の向上
- ③ 避難所の機能の確認と高齢者、災害弱者の避難対応
- ④ 広域災害時の自助、共助の構築



地域コミュニティ協議会名称

# 亀田西小学校区コミュニティ協議会

活動名称

## 亀田西小学校区合同防災訓練

世帯数

約4,100世帯

### 活動内容

亀田西小学校区は、防災活動の盛んな地域です。各自治会・町内会で積極的に訓練を開催し取り組んでいます。

平成18年4月にコミュニティ協議会が設立された頃、中越地震・能登地震・三重地震と続き、地域での防災意識が高まりました。平成19年5月から当協議会の安心安全部会が中心となり、区役所・学校・警察署・消防署・コミュニティ協議会（地域）が一体で、亀田西小学校において「合同防災訓練」を実施しています。

合同防災訓練の目的を、①住民の防災意識の高揚を図る。②地域連帯感の強化を図る。③災害時要援護者対策を図る。④自主防災組織設立の支援とし、より実践的な訓練を行なうため、震度5強の地震を記録した想定で実施しています。訓練内容は、自治会・町内会ごとに行動することを基本とし、近くの公園等へ一時避難、災害時要援護者の安否確認をした後、集団で会場へ避難します。

合同防災訓練の内容は、初期消火訓練・応急手当訓練・火災の煙体験・はしご車試乗訓練や炊き出し訓練などの多様な訓練を実施しています。平成20年度は、県内に1台しかない地震を体験できる“起震車”を招くなど、実施しました。



### 実績・効果

平成19年度、20年度と訓練を実施し、参加人数も増えています。今年度は、子どもから高齢者まで男女や年齢に関係なく400人余りの方々から参加していただきました。行政・学校・警察・消防・地域が連携し、地域の防災意識が高まり、連帯感を深めることができました。

今後も、合同防災訓練の目的のため、地域防災活動の一層の充実に努めたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

# 小合地域コミュニティ協議会

活動名称

安心・安全地域づくり活動事業（小合地域自主防災協議会）

世帯数

約 1,120 世帯

## 活動内容

中越地震の災害復興もまだ半ばにして、再び遭遇した中越沖地震、さらに度々報道される災害の情報、少子・高齢化における人口の減少、要援護者の対策、災害に遭遇したときの対策等を検討しました結果、解決策として平成18年度に自主防災協議会の設立に至りました。

二十数回にわたる検討会、反省会や地域動向調査を積み重ねて結成し、住民総意による安心・安全な地域づくりを目指し日々活動しております。

### 1. 組織・活動内容

- (1) 災害対策本部 コミュニティセンター
- (2) 災害対策分会本部（小学校） 2ヶ所
- (3) 現地対策本部（町内会集落センター） 14ヶ所

### 2. 参加組織

町内会・中学校 1 校・小学校 2 校・P T A・保育所・幼稚園・老人クラブ・民生児童委員会・交通安全協会・青少年育成会・消防団

### 3. 災害啓発活動

恒常的に関係会議を開催

### 4. 防災訓練方法（災害想定訓練）

- (1) 災害本部長の災害発令訓練開始
- (2) 一次避難訓練、14現地災害本部長の指揮命令により行動開始。
- (3) 二次避難訓練、2分会部長（東・西南地区）の指揮命令により行動開始。
- (4) 災害訓練（避難誘導訓練・初期消火訓練・有煙体験訓練・炊き出し訓練）



## 実績・効果

発足当時、いつ遭遇するとも知れない災害に対する訓練に関心を持つ人が少なかったのですが、啓発活動により月日を追うごとに地域住民には自主防災についての必要性が認識されております。

平成19、20年度の災害訓練にはともに約700名の参加があり、大きな実績を上げました。また、各自治会にも年々防災資機材の導入を計画し、より一層防災に強い安心で安全な地域づくりに努めたいと考えております。

地域コミュニティ協議会名称

## 山の手コミュニティ協議会

活動名称

安心・安全なまちづくり活動

世帯数

約 1,380 世帯

## 活動内容

はじめからうまくいくわけがない、「とにかく立ち上げて行動、行動しながら改善しよう」。防災訓練の立ち上げ時にどこがうまくいかないかを平常時に検証するのが訓練であるから、うまくやる必要はないと訴え合同防災訓練に取り組みました。

防災訓練とあわせて、その日までに区内全ての自治会に自主防災組織が立ち上がりました。訓練前までは1自治会しかなかった自主防災組織が、防災訓練の日までに区内18自治会すべてに自主防災組織を立ち上げましたから組織率は100%です。

そのほかに下校時の子ども見守り隊、緊急時の防犯パトロール、秋の防犯週間に合わせた中学生防犯指導の取り組み、年末年始防犯パトロール、青色防犯灯の取り組み、さらに各自治会長及びコミ協全役員の自家用車に「パトロール中」のステッカーを付け巡視、また現在、防犯部長の自家用車への青色回転灯の取付許可を警察署に申請中です。



## 実績・効果

山の手コミュニティ協議会に結集する新興住宅住民と旧住民の融和だけではなく18自治会の一体感、「山の手コミ協はひとつ、18自治会は隣組」という気持ちに変わってきました。行政に対する要望事項も地域全体を見た観点からの要望になってきています。

私たちの活動が地域から頼りにされ、地元の老人保健施設から災害時の相互援助協定を結ばせてほしいという依頼が二ヶ所から来て、平成20年10月に協定を結びました。

地域コミュニティ協議会名称

# 坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会

活動名称

住民総出のまちづくり

世帯数

約5,500世帯

## 活動内容

当学校区は、新潟市内でも数少ない一小・一中学校区で地域の結束力が強く、学校区内22自治会4,800世帯が加盟して、去る平成12年に坂井輪小学校区自主防災会を設立しました。

当自主防災会が毎年10月に実施する地域合同防災訓練には毎回600名からなる地域住民の参加に加えて、地元小新中学校の生徒も多数参加し、地域住民と一緒に避難訓練・救護訓練、救急救命訓練、炊き出し訓練などで実技を習得、地域ぐるみで災害時の対応に備えています。

毎年実施する防災訓練の種目や綿密なタイムスケジュールの作成等は、役員で地元在住の新潟市消防局のOBが担当、訓練実施にあたっては種目毎に加盟自治会長が役割を分担、炊き出しには婦人部のベテラン主婦40名が600人の給食を担当しています。



地元の中学生も参加する地域合同防災訓練



自治会標旗を先頭に集合する訓練参加者

## 実績・効果

設立9年目を迎えた坂井輪小学校区自主防災会は、当初から統制のとれた訓練内容と、防災訓練を通じて安心・安全なまちづくり運動が関係機関から高く評価され、あしたの日本をつくる運動協会（内閣府）のモデル地区に指定されるなど、災害に強いまちづくりのために、地域住民の結束が強まり世代交流の輪が更に広がりました。

地域コミュニティ協議会名称

## 五十嵐小学校区コミュニティ協議会

活動名称

防災図上訓練

世帯数

約5,300世帯

## 活動内容

五十嵐小学校区域は、新潟地震以後（昭和40年以降）急速に住宅開発が行われ、今日に至っております。そのため都市整備が追いつかず、道路幅も狭く、袋小路が各所にあり、迷路状態になっている所もあります。

“もしも火災や地震などの災害が発生した時はどうするか……”すでに各自治会単位では、危機意識を持って自主的に独自の防災訓練を実施してきました。

コミュニティ協議会が設立したのを機に、区域内のどこにどの様な危険箇所があるかを認識し、さらに又、どの様な施設があって、災害時にはどんな協力をお願いすることができるのか等々を、災害部長を中心としたワークショップ形式で、災害を想定しながら、図上での全域の防災対策を検討しています。



## 実績・効果

今まで、自主防災会のなかった自治会での設立、または小規模組織の自治会が一緒になり、複数での自主防災会の立ち上げを検討中のところもあり、自主防災に対する意識の向上が見られる様になりました。

地域コミュニティ協議会名称

## 立仏校区ふれあい協議会

活動名称

立仏校区防災訓練

世帯数

約2,700世帯

## 活動内容

立仏小学校の校区内は、田園に建設された住宅団地と古くからの農家集落が混在する地域で、信濃川と西川に囲まれた海拔の低い地勢にあります。

地域周辺には、大型店舗も数多く、新潟西インターチェンジも近いなど生活の利便性は高く、加えて総合病院もあり恵まれた生活環境を享受している地域です。

しかし、地域住民の高齢化が進む一方、団地の住民の多くは地域外の職場に勤務するため昼間人口は少なくなり、大きな災害が発生した場合は不安があります。

立仏校区ふれあい協議会では、発足後に校区内の全15自治会に呼びかけ「防災訓練の実施」に取り組むことにしました。

15自治会で「自主防災組織」が全て設立されたのを契機に、各自治会や防災関係機関はもとより「済生会新潟第二病院」からも参加いただき、「訓練計画」の準備を進めました。

訓練は、平成19年9月9日（日）に『地震発生を想定』して実施しました。

会場の立仏小学校の体育館に、地域のみなさんは、各自治会の集合場所から徒歩で避難していただき、参加された方は555名になりました。

訓練は、アルファ米の炊き出し、耐震車の体験、AEDによる心臓マッサージ体験、煙からの避難体験、消火器使用訓練のほか「トリアージタッグ」の学習や防災用品見学など行い、みなさんからは、班に分かれて参加していただきました。



## 実績・効果

参加された方々からは、感謝のご意見を数多くいただきました。また継続実施の要望も多くありました。

協議会では、この結果を生かしていくために、平成20年度から「防災部会」の新設を総会で決め、各自主防災会から適任者の参加をいただき、平成20年8月28日新たに「防災部会」を発足させ活動を開始しました。【一步一步の歩みです】

地域コミュニティ協議会名称

## 山田校区ふれあい協議会

活動名称

通学道路・一般道路の安全点検

世帯数

約2,800世帯

## 活動内容

当会では、生活環境部会を中心に、結成から毎年、校区内を二つの地区に分け、道路環境の点検パトロールを実施しています。

この事業は、安心・安全なまちづくりを目指し、通学路や生活用道路として普段利用する歩道やカーブミラーなどに不備がないか、横断歩道の白線が消えかかっていたりしないか、側溝や排水路などに危険な箇所はないかなど、お年寄りや児童・生徒、障がい者のみなさんなど一般住民の視点に立ち、危険な箇所をピックアップし、写真に収めながらパトロールを行うものです。

平成20年度は、8月6日にパトロールを実施しました。その結果、30箇所の不備や危険箇所を発見。地図に写真を添付して活動成果の資料として作成し、道路の管理者である西区役所を訪れ、資料に基づき改善要望を行ったところです。



## 実績・効果

歩道などは地域に居住する住民にとって利用頻度の高い公共施設であり、特に通学路においては小学校の児童が利用することから、高い安全性が要求されるものと考えています。

当会では、1年に1回このような点検活動を行うことで、施設管理者への改善要望を行ってまいりましたが、これまで速やかな対応が図られ安心・安全な街づくりの一端を実現しています。

地域コミュニティ協議会名称

## 中之口地区コミュニティ協議会

活動名称

中之口地区総合防災訓練

世帯数

約 1,700 世帯

## 活動内容

「防犯防災部会」は45名の部会員で発足しました。素人集団の部会ですが会議を重ねる中で、総合防災訓練の開催（平成19年6月17日）を宣言し、それまでに「自主防災組織結成を」とタイムリミットを作りました。訓練日までに結成率が中之口地区で100%になったのは、中越地震などを体験したことによる防災意識の高まりや、自分たちの地域は自分たちで守るという意識の表れと感じています。

訓練では、震度5強の地震発生を想定し、防災無線によるサイレンを合図に各家庭での火元の確認、身体保護などを行い、住民は避難を開始しました。

各自主防では「避難誘導訓練」から始まり「情報伝達訓練」などの多様な訓練実施後、自主防名入のぼり旗を掲げ、総合防災訓練会場へ移動しました。災害対策本部に、避難人員などを報告後、消防団によるポンプ車10台での「放水訓練」、「バケツリレーによる消火訓練」、「ダミー消火器による消火訓練」、「救急救命訓練」、「給食給水訓練」など午後1時から始まり午後5時まで、4時間に及ぶ訓練を無事終了しました。

第2回の訓練（平成20年6月15日）では一部の自主防が「災害時要援護者避難誘導訓練」を実施しました。訓練参加者は、平成19年が1,864名、20年が2,120名と地区住民の3分の1弱となっています。



## 実績・効果

1. 住民の防災に対する意識が高まりました。
2. 中之口地区すべての自治会で自主防災組織が結成され「災害時要援護者」支援体制が充実しました。
3. 防災訓練実施1カ月後に、中越沖地震が発生しましたが、自主防役員及び一般の住民が、自発的に避難所や集会所等に駆け付け、被害状況早期把握に貢献しました。
4. 住民の連帯感が増しました。